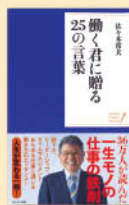


平成
30年度

大切な あなたへ薦める 青春の一冊

優秀作品集



目次

中学生の部

◆最優秀賞◆

『未来のミライ』（細田 守／著） 五戸町立五戸中学校 2年 佐々木大輝 …… 1

◆優 秀 賞◆

『友だち幻想』（菅野 仁／著） 青森市立三内中学校 3年 原子 結那 …… 2

『塩狩峠』（三浦 綾子／著） 五戸町立五戸中学校 2年 頭久保京子 …… 2

『星の王子さま』（サン＝テグジュペリ／著 内藤 濯／訳）
五戸町立五戸中学校 2年 野村 朱里 …… 3

『余命10年』（小坂 流加／著） 五戸町立五戸中学校 2年 安部 凜 …… 3

『敗者たちの季節』（あさの あつこ／著）
五戸町立五戸中学校 3年 山田 真滉 …… 4

●奨励賞・審査員賞一覧 …… 4

高校生の部

◆最優秀賞◆

『働く君に贈る25の言葉』（佐々木 常夫／著）
青森県立百石高等学校 2年 横川 綾香 …… 5

◆優 秀 賞◆

『いつかすべてが君の力になる』（梶 裕貴／著）
青森県立六戸高等学校 2年 舘向 莉穂 …… 6

『君たちはどう生きるか』（吉野 源三郎／著）
青森県立青森高等学校 1年 澤田 佳奈 …… 6

『ヒーロー！』（白岩 玄／著） 青森県立青森東高等学校 1年 三浦 花音 …… 7

『友情』（武者小路実篤／著） 青森県立青森東高等学校 2年 長谷川実咲 …… 7

『はなちゃんのみそ汁』（安武 信吾・千恵・はな／著）
青森県立北斗高等学校 1年 小嶋菜々子 …… 8

『人間失格』（太宰 治／著） 青森県立七戸高等学校 2年 岡村 葉奈 …… 8

●奨励賞・審査員賞一覧 …… 9

中学生の部 / 最優秀賞

『未来のミライ』（細田 守／著）

五戸町立五戸中学校 2年 佐々木 大輝

「お兄ちゃんなんだから、もっと優しくしてあげなさい！」何度聞いたことだろう…。妹のミライが生まれたことによって、“勝手”に兄になり、“勝手”に兄扱いされる主人公。思わず、自分と重ねて読んでしまった。弟が生まれ、両親の意識は必然と弟へ傾く。そして、家庭内での自分の存在が薄くなる。我慢することも増え、様々な葛藤が心に芽生えた時期もあった。

この本が伝えたいのは、そんな年上の大変さではない。そこを乗り越えた先にある「兄弟間の絆の素晴らしさ」なのである。弟、妹に思わず苛立ってしまう、そんなあなたに読んで欲しい。きっと、かけがえのない存在だと気づき、優しい気持ちになるはずだ。



角川文庫

【審査評】

自分の意思とは関係なく兄になることで生じる家族の中の孤独。そこで生じる葛藤に心を寄り添わせている。しかし、この作品の本質は、対極とも言える兄妹、兄弟の絆の素晴らしさであり、そのことに気付いた自身の成長が伝わる秀作である。

中学生の部 / 優秀賞

『友だち幻想』（菅野 仁／著）

青森市立三内中学校 3年 原子 結那

なぜ、いじめが起きるのでしょうか。その答えがこの本に書かれています。「自分というものをすべて受け入れてくれる友だちは幻想だ。」この言葉で私は、はっとしました。今まで私は考え方や感じ方が違う人とはなるべくかかわらないようにしていました。考え方が似ている人、気の合う人と仲良くするようにしていました。それでも意見がくい違うことがあり、「どうしてわかってくれないの」と苛立っていました。しかし、この言葉を読んで肩の力がぬけました。自分と全く同じ人などいなくて当たり前、違っているからこそ分かり合えると知り、心が楽になりました。友だちって楽しい、友だちって難しい。そんな風を感じている人にぜひ読んで欲しい一冊です。



ちくまプリマー新書

【審査評】 友だちって楽しい、友だちって難しい、自分の納得する言葉で友だちといじめに立ち向かう自分を表現している。自分の心の支えを見つけた喜びが伝わってくる良品である。

『塩狩峠』（三浦 綾子／著）

五戸町立五戸中学校 2年 頭久保 京子

中学生になると、「進路を考える」ということが他人事ではなくなる。自分で、これからの自分の道を創らなければいけない。私も中学二年生になり、自分の将来や人生について考えることが多くなった。

この本は、「生」と「死」について悩みに悩んだ、永野信夫の一生を描いたものである。信夫が人間的欲求や、自分では気付けない感情に苦しむところに、私はうんうんと頷いた。自分の悪い所を優しく教えられているようだった。信夫の最期には胸が締め付けられ、「自己犠牲」について考えさせられた。

常に悪人でない人などいない。だが、そんな複雑な人間の美しい面を、一人の人物の「生き方」を通して、教えてくれる一冊である。



新潮文庫刊

【審査評】 常に悪人でない人などいないことを、複雑な人間の美しい面として捉える過程が、成長として伝わる。未来を生きる自らの応援歌を見つけた喜びを感じさせる良品である。

『星の王子さま』 (サン＝テグジュペリ／著 内藤 濯／訳)

五戸町立五戸中学校 2年 野村 朱里

飛行機で砂漠に不時着した“僕”。そんなときに、小さな王子さまと出会う。王子さまは、6つの星を巡った後に、7つ目の星として地球にたどり着いたのだった。王子さまは、ある理由で自分の星を離れたが、たくさんの人と出会い、大切なことを知り、星が恋しくなるのだった。

「大切なものは目に見えない」王子さまが出会ったキツネの言葉。私はある時、友達と喧嘩をして、その友達を否定してしまった。しかし、この本を読んで私は、友達の表面だけしか見ていなかったことに気付くことができた。読めば読むほど意味が深くなるこの本。勉強や部活、人間関係で大切なものがわからなくなってしまったら、ぜひ読んでほしい。

星の王子さま

Le Petit Prince
écrit de Saint-Exupéry
サン＝テグジュペリ作
内藤 濯訳



岩波文庫

【審査評】 「大切なものは目に見えない」、一生の宝物とも言える言葉を見つけた感動。身近にある大切なものに気付くことの重さ、そして、喜びを読む人に伝えている良品である。

『余命10年』 (小坂 流加／著)

五戸町立五戸中学校 2年 安部 凜

二十歳の茉莉は、数万人に一人という不治の病に倒れ、余命があと十年であることを医師に告げられる。死ぬことなんて怖くないと茉莉は思っていた。

私も小学校六年生の時、ある病気にかかった。最初は信じられなかった。信じたくなかった。本当はどん底の気持ちだったのに、周りには笑顔で「私は大丈夫!」と言っていた。だから、茉莉に共感するところが多かった。

余命十年。自分だったらどう過ごすのか。幸せと辛さは表裏一体。辛くても幸せだと感じる時間をとるか。辛さも幸せもない時間をとるか。今、自分たちの平凡な日常が、素晴らしい時間なのだとすることを思わせてくれる、そんなお薦めの一冊だ。



文芸社文庫 NEO

【審査評】 幸せと辛さは表裏一体。しかし、辛さと共に過ごす時間は、本当に不幸な時間なのか。病気という自分の経験と合わせて、平凡な日常の過ごし方の大切さを提案する良品である。

『敗者たちの季節』（あさの あつこ／著）

五戸町立五戸中学校 3年 山田 真滉

「勝ちに拘ると、負けを怖がるのとは全然、違うぞ」これは、試合中にキャプテンが選手たちに向けた言葉だ。この本では、甲子園を目指す高校球児たちの「成長」と「敗北」が、リアルに描かれている。

私は運動部に所属し、約2年半の部活動の期間、選手として全ての大会に出場したが、勝った試合はたった7つしかない。「敗北の悔しさ」をたくさん知っているから、登場人物たちの想いに共感した。私はこの本を読み、敗北を見つめることの大切さを知った。これは、スポーツに限ったことではない。勝利を知ることはとても大切だ。しかし、この本を読んで、勝利の裏にあるたくさんの「敗北」を知り、さらなる高みを目指してはどうだろう。



角川文庫

【審査評】 中学生生活の中のもう一つの現実を突きつけられる世界、それが部活動。真剣に勝利を目指すからこそ、その現実からまた一つ成長できる。そんなメッセージが伝わる良品である。

中学生の部 / 奨励賞一覧

- | | | | |
|--------------------------------|------------|----|-------|
| ◇『夏の庭 The Friends』（湯本 香樹実／著） | 六ヶ所村立第一中学校 | 3年 | 下田 美羽 |
| ◇『ナミヤ雑貨店の奇蹟』（東野 圭吾／著） | 青森市立古川中学校 | 2年 | 小倉 有貴 |
| ◇『神様のコドモ』（山田 悠介／著） | 八戸市立明治中学校 | 1年 | 高坂 菜摘 |
| ◇『少女』（湊 かなえ／著） | 十和田市立第一中学校 | 1年 | 高淵 紗也 |
| ◇『卒業ホームラン』（重松 清／著） | 五戸町立五戸中学校 | 1年 | 古川 怜奈 |
| ◇『あと少し、もう少し』（瀬尾 まいこ／著） | 五戸町立五戸中学校 | 2年 | 丸山 遥 |
| ◇『星の王子さま』（サン テグジュペリ／著 池澤 夏樹／訳） | 八戸市立白銀中学校 | 2年 | 川野輪和心 |
| ◇『羊と鋼の森』（宮下 奈都／著） | 八戸市立白銀中学校 | 2年 | 音喜多優貴 |
| ◇『イノセント・デイズ』（早見 和真／著） | 弘前市立第四中学校 | 3年 | 工藤 咲季 |
| ◇『モモ』（ミヒヤエル・エンデ／著 大島 かおり／訳） | 五戸町立倉石中学校 | 3年 | 今川 留那 |

中学生の部 / 審査員賞一覧

- | | | | |
|-------------------------|-----------|----|-------|
| ◇『70年分の夏を君に捧ぐ』（櫻井 千姫／著） | 青森市立古川中学校 | 2年 | 石戸 彩菜 |
| ◇『あのころ』（さくら ももこ／著） | 八戸市立明治中学校 | 1年 | 相前なな花 |
| ◇『ランナー』（あさの あつこ／著） | 青森市立浦町中学校 | 3年 | 三上希望海 |

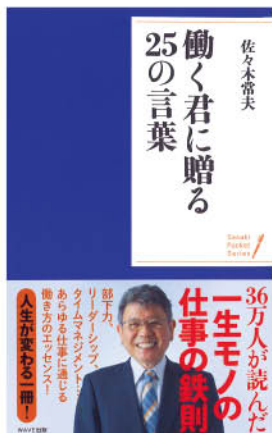
高校生の部 / 最優秀賞

『働く君に贈る25の言葉』 (佐々木 常夫／著)

青森県立百石高等学校 2年 横川 綾香

頑張っているのに結果が出ず、頑張りが続いているが無意味に感じて、投げやりな気持ちになっていたとき、この本に出会いました。私が好きなフレーズは「それでもなお」という言葉が、君を磨き上げてくれる”です。失敗しても、理不尽なことがあっても「それでもなお」と頑張りが続けることは自分の成長となることを理解し踏み出す勇気をもらいました。

悩んで、本当にこれで良いのかと立ち止まった時、この本を読んでください。たくさんの人生のアドバイスが書いてあります。著者が優しく自分に語りかけてくれているような感覚となります。結果が出なくても、頑張っていることを認めてもらい、立ちすくむ私の背中をポンと押してくれる一冊です。



WAVE出版

【審査評】

社会においては結果が評価されがちだが、しっかりとしたプロセスを経なければ、それは一時的なものに過ぎない。「それでもなお」というキーワードのもと、強い意志を持ってさらに前に進もうという姿勢の感じられるよい文章となっている。

高校生の部 / 優秀賞

『いつかすべてが君の力になる』(梶 裕貴/著)

青森県立六戸高等学校 2年 舘向 莉穂

この作品は、将来について悩んでいる私に元気をくれました。私はいつも進路相談や三者面談のときに将来のことを聞かれるのが嫌でした。自分でも何をすることが正しいのかが分からなかったからです。でも、この作品を読んだとき、考えが変わりました。作品の中に「人生は楽しんだ者勝ち」という印象的な言葉があります。私は「悩んでいる今がもったいない。悩む暇があるなら、学校生活を楽しく送り、沢山の経験をした方がいい。」そう思いました。この作品では「声優」という職業が主に出てきますが幅広い人に読んでもらいたいです。読めばきっと自分が今していることは無駄ではない、いつかすべてが自分の力になる。そう思えます。



河出書房新社

【審査評】 将来は現在がいくつも連続して行く中で決まっていくものである。高校生にとって、将来のビジョンを持つことは難しいことだ。であれば、現在を楽しんだ先に楽しさに満ちた将来があると思わせてくれる軽快な文章である。

『君たちはどう生きるか』(吉野 源三郎/著)

青森県立青森高等学校 1年 澤田 佳奈

あなたは自分の思い通りにならないことがあった時、どのようにして乗り越えますか。

私が中学校で会長として合唱曲を決めたとき、運動会の行進や応援の順番を決めたときは、いつも思うようにはいきませんでした。最後の合唱コンクールで、最優秀賞を取りたかった私は、「言葉にすれば」という難しい曲に挑戦したいと先生に相談しました。初めは歌う気ではなかった仲間が一致団結して、思い通りの結果になった時、嬉し泣きをしました。

この本の主人公コペル君とおじさんが、マイナスをプラスに転じ、望まない出来事から真の友を得ることができるということを教えてくれます。「人生を豊かに生きたい！」そう考えるあなたに読んでほしい一冊です。



岩波文庫

【審査評】 自分の体験と本の内容を重ね合わせており、読書をしている時から本の内容に共感を抱いていたことを感じさせる文章である。さまざまなことに対して困難を抱えながら一つずつ解決してきた作者の様子がうかがわれるよい文章となっている。

『ヒーロー!』(白岩 玄/著)

青森県立青森東高等学校 1年 三浦 花音

テレビから流れてくるいじめのニュース。それはあまりにも悲惨で、心が苦しくなる。「どうかしてこの世からいじめをなくせないだろうか」誰もが一度は考えたことがあるだろう。そして私もまた、その一人である。

この本は、そんないじめをテーマにした作品だ。ヒーローに憧れる男子高校生の主人公と、ひねくれ者の女子がタッグを組み、意外な方法でいじめをなくそうとする痛快学園物語である。いじめまでは発展しなかったが、当時学級内でよく耳にしていた陰口に困っていた私にとって、この本はとても衝撃的だった。正義を貫こうとして、軋轢(あつれき)が生まれてしまいがちなこの時期に、ぜひ読んでもう一度考えてほしい。正義とは何か、を。



河出書房新社

【審査評】 自分にとって身近でありながら、なかなか解決できない問題である「いじめ」の存在する現状から一歩踏み出し、一人ひとりに自分の問題として考えて欲しいという気持ちの強さを感じさせる文章である。

『友情』(武者小路実篤/著)

青森県立青森東高等学校 2年 長谷川 実咲

青春は必ずしも良いものとは限らない。皆何かしらの悩みや苦しみを抱えながら生きている。私は以前高校が別々になってしまった友人からこんなメールをもらった。「トモダチって何」それを讀んだときに思い出したのがこの本だ。私が初めてこの本を讀んだとき、主人公野島の失恋物語だと思っていた。しかし読み返してみると、これは野島と大宮との友情物語だとわかった。二人は最終的に決別してしまうが、その後の二人がどうなったかは書かれてはいない。だからこそ皆さんにはこの本を讀んで考えてほしい、二人のその後を。そうして考えた答えが私の友人の問いへの答えとなる。青春のとき決別してもいつか友情が甦るときがくるかもしれない。



新潮文庫刊

【審査評】 今では高校生が取り上げることの少ない作品を讀むことになったきっかけや青春期の友情の不安定さ、それを乗り越えた成熟した友情への思いを一気に綴った力強い文章である。

『はなちゃんのみそ汁』（安武 信吾・千恵・はな／著）

青森県立北斗高等学校 1年 小嶋 菜々子

『はなちゃんのみそ汁』は乳癌（がん）の宣告を受けても懸命に治療を続けた安武千恵さんと、それを支える夫の信吾さん、娘のはなちゃん、家族三人の絆を描いた感動の実話です。千恵さんはどんなに身体の状態が悪くても生きることを諦めず懸命に治療を続けてきました。これを受けて私は一生背負い続けるであろう自分の持病とも上手く向き合えるような気がしたのです。また、私と同学年のはなちゃんは幼い頃からよく千恵さんの家事を手伝っていて、私が何も考えずに遊んでいるとき、彼女はこんなにも頑張っていたのだと尊敬の気持ちで一杯になりました。24時間テレビの中のドラマにもなったこの作品、読んで損はないと思うので同世代の方には是非おすすめしたいです。



文藝春秋刊

【審査評】 自らの状況と作品中の家族の状況を重ね、前向きに生きることの素晴らしさを素直に述べている。作品中の「はなちゃん」の姿から、自分や自分と同年代の人たちが、もっと頑張れるはずだという気持ちを抱いたことを強く感じさせる文章である。

『人間失格』（太宰 治／著）

青森県立七戸高等学校 2年 岡村 葉奈

誰にでも、苦しく逃れたいと思うことがあるだろう。私は、そんな時にこの本を読む。自分の読むときの感情で、読んだ後考えたり、思うことが異なってくる。主人公である葉蔵の人間を恐れ、人前では別人の自分を演じていることに恐怖を感じる。幼い頃から、子どもらしい無邪気さ、元気を全て演じ、人から嫌われないようにしていた。

私にも葉蔵と共通点がある。それは、人の顔色を常に気にしている点と、ネガティブなところだ。友達との付き合い方や人間関係に悩んだら読むようにしている。登場人物に、感情移入して読んでみるのもおもしろい。賛否両論はっきりと分かれる本だが、必ず共感できる。魅力あふれる本を読んでほしい。



集英社文庫

【審査評】 思春期の高校生ならば、だれもが少なからず感じている主人公の恐れに共感しながらも冷静に作品への評価を踏まえ、さらに自身がこの本に高い評価を与えていることを強く感じさせるまとまったよい文章となっている。

高校生の部 / 奨励賞一覧

- | | | | |
|--|--------------|----|--------|
| ◇ 「置かれた場所で咲きなさい」 (渡辺 和子/著) | 青森県立鶴田高等学校 | 3年 | 須藤 綾乃 |
| ◇ 「天才はあきらめた」 (山里 亮太/著) | 青森県立八戸商業高等学校 | 3年 | 林下智比呂 |
| ◇ 「ココ・シャネルの言葉」 (山口 路子/著) | 青森県立六戸高等学校 | 3年 | 長者久保麻衣 |
| ◇ 「東京奇譚集」 (村上 春樹/著) | 青森県立弘前実業高等学校 | 2年 | 下山 美羽 |
| ◇ 「ラッキーガール」 (佐藤 真海/著) | 青森県立弘前実業高等学校 | 1年 | 葛西 杏那 |
| ◇ 「ざんねんないきもの事典」 (今泉 忠明/著) | 青森県立青森高等学校 | 1年 | 相馬 瑛翔 |
| ◇ 「青い鳥」 (重松 清/著) | 青森県立浪岡高等学校 | 1年 | 乗田 快斗 |
| ◇ 「知らないと恥ずかしい! おとなのマナー図鑑」 (トキオ・ナレッジ/著) | 青森県立浪岡高等学校 | 2年 | 下山 市乃 |
| ◇ 「ひまわりと子犬の7日間」 (平松 恵美子/著) | 青森県立五所川原高等学校 | 2年 | 松橋 樹 |
| ◇ 「あと少し、もう少し」 (瀬尾 まいこ/著) | 青森県立金木高等学校 | 3年 | 横山真理奈 |

高校生の部 / 審査員賞一覧

- | | | | |
|----------------------|------------|----|-------|
| ◇ 「墮落論」 (坂口 安吾/著) | 青森県立青森高等学校 | 1年 | 福富 葉月 |
| ◇ 「MOMENT」 (本多 孝好/著) | 青森県立浪岡高等学校 | 1年 | 佐藤 李音 |
| ◇ 「夜のピクニック」 (恩田 陸/著) | 青森県立金木高等学校 | 3年 | 秋谷 麻衣 |

中学生・高校生の皆さんへ

中学生・高校生の皆さん、本を読んでいますか。

あなたのオススメの一冊は何ですか。

青森県教育委員会では、皆さんにより本に親しんでもらいたいとの思いから、県内の中学生・高校生の皆さんを対象として、仲間や友だちなどへのオススメの本の紹介文（200～300字程度）を募集しました。

今年度もたくさんの応募（[中学生の部] 1,098点、[高校生の部] 3,067点）をいただき、その全ての作品から、皆さんの「オススメの一冊」への共感や思いが感じられました。

この作品集では、応募作品の中から、厳正な審査により最優秀賞・優秀賞に選ばれた計13作品を紹介しています。また、奨励賞・審査員賞を含む全ての優秀作品については、県教育委員会のホームページで読むことができます。

これらの紹介文を読んで、実際に図書館や書店で本を手にとって、読んでみてください。そして、ぜひ、ふだんの生活でも、皆さんそれぞれのオススメの本を仲間や友だちどうしで紹介し合ってみてください。

心に残る本との出会いによって、皆さんがこれからの人生をより深く生きるための力となることを願っています。

青森県 青春の一冊

検索



【審査員】

青森県立板柳高等学校	校長	米持 聡
青森市立南中学校	校長	高橋 光夫
株式会社成田本店しんまち店	店長	長谷川達雄
青森県読書団体連絡協議会	会長	田中 忠博
八戸学院大学短期大学部	教授	茂木 典子
青森県教育庁生涯学習課	課長	渡部 靖之



【発行】

青森県教育庁生涯学習課
〒030-8540 青森市長島1-1-1
Tel 017-734-9888
Fax 017-734-8272
発行日 平成31年2月